

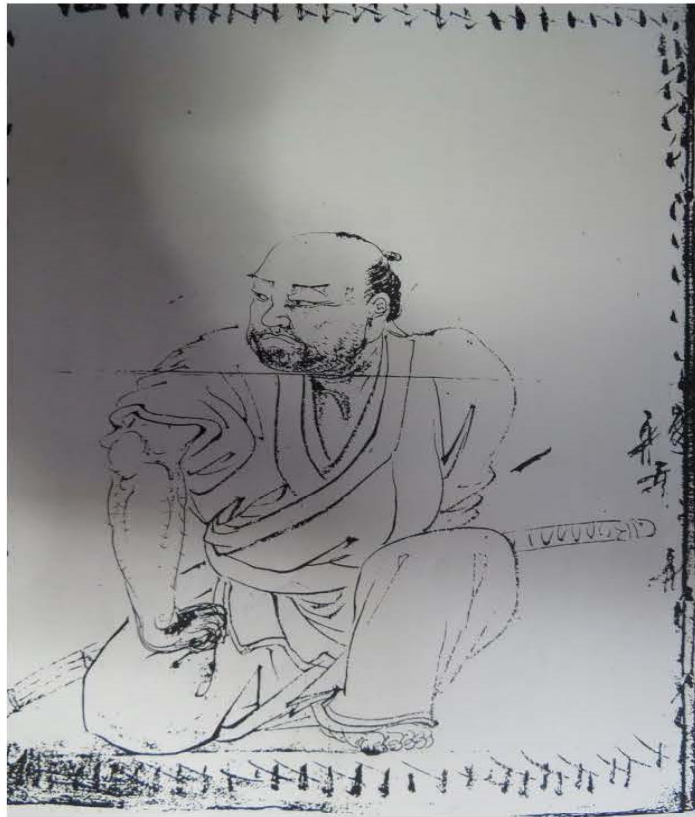
# 竹原郷土史研究会

## 国定忠治が残した北信濃の痕跡

国定忠治1810年生まれ、間の川又五郎1815年生まれ、清水次郎長1820年  
生まれ。5歳ずつですね！

江戸時代の後期、国定忠治という侠客が度々信州中野に来ていたといわれている。群馬県の大戸の関所破りをして磔刑になり、最期を遂げるいきざまが、後の人々の共感を得て、明治から平成の初期まで講談・映画などで人々に広く知られていた一人であった。

昨年の暮れ、この国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋が、信州中野の八ヶ郷用水取入口付近（夜間瀬川左岸字松崎）で見つかった。そこでこの言い伝えの信憑性と合わせ、忠治が北信濃で残した痕跡を調べることにした。



『赤城録』より

結論から言うと、国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋は、非常に信憑性が高い。理由を次に述べたい。

一、 言い伝えは、忠治が渡ったと言われる石橋の目の前の畔上家で、代々伝承されているものである。

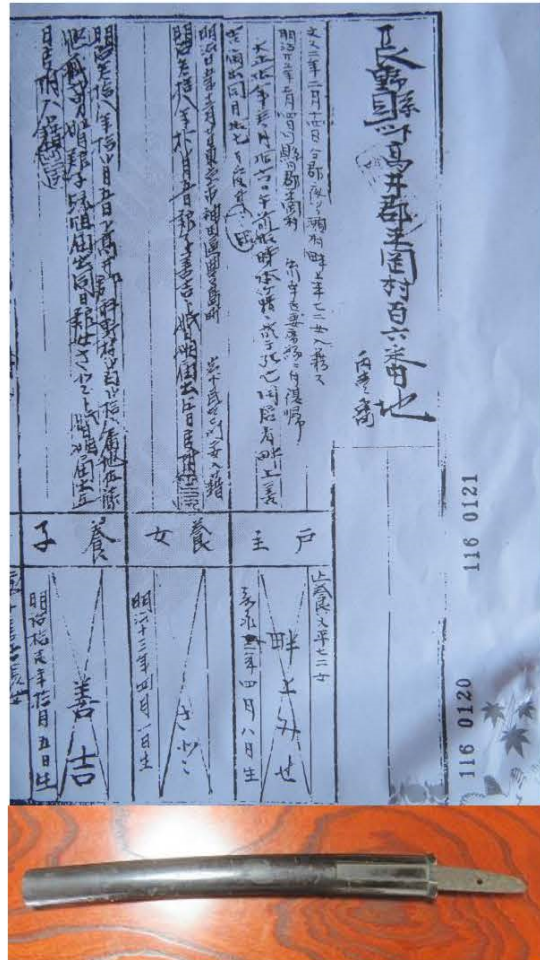
二、 畔上家では、戸籍で当主畔上みせさんが文久二年以前に生まれ、大正十一年に亡くなった事が確認できる。みせさんの伝えを、その子である善吉さんが現在の当主であり、孫である武男（四代目）さんに

三、 子供の頃伝えられている。また、武男さんの母やおさんにも伝えられており、やすおさんが近くの人になっており、この石橋を大切にし、後世に残すようになった。

武男さんによると、畔上家は忠治が生きていた時代お茶屋だった。高梨城跡にあった馬屋を当主みせさんが現在の石橋前に移し、駄菓子、販売等をしていたという。その家で武男さんも育ち、長い縁側があり、馬のたづなをかける金具もいくつあったとのこと。忠治は長野権堂・中野湯町・山ノ内上条川原の旅籠屋などで行われていた賭場荒しなどで、頻繁に石橋を渡っていたと推察される。畔上家二代目の善吉さんも、山ノ内に脇差しをもつて遊びに行っていたという。その脇差しは今も受け継がれている。

四、 高梨の時代（江戸時代前）より続いている夜間瀬本郷の畔上秀雄さんの証言でも、畔上家の伝承は間違いないだろうとされている。

五、 国定忠治の信州における史料は皆無に近い。主に生まれ故郷の群馬県の歴史研究者により、『赤城録』などを参考にされている著書の中でも、忠治が信州中野から志賀高原を通ったとする記述が多い。



（畔上家の先祖みせさんの戸籍と代々伝わる脇差し）  
次に忠治の年表を紹介したい。この年表は西郊民俗談話会が連載としてホームページに、「民俗学の散歩道」第ニ二回（二〇一五年七月号）長沢利明著「国定忠治の伝承」の表4である。

国定忠治関連年表

◇ 一八一〇年（文化七年）

上州佐位郡国定村の長岡家に忠治生まれる。

◇ 一八二一年（文政四年）

十一歳で父与五左衛門が死亡、母親の手で育てられる。

◇ 一八二三年（文政六年）

十三歳で博奕を覚え、博徒への道に入る。

◇ 一八二七年（文政十年）

十七歳の時、初めて喧嘩で人を殺める。大前田栄五郎（河越頼吾）大親分のもとへ身を寄せて隠れ、無宿人となる。

◇ 一八三〇年（天保元年）

大前田栄五郎のすすめで栄五郎の子分、百々村（後の佐波郡境町内）の紋次（紋二とも）の配下に。紋次の死後、その縄張りを譲られて跡目を相続し、一家を成す。忠治二十一歳。

◇ 一八三四年（天保五年）

七月二日、子分の三ッ木文蔵が賭場で殴られた件の仕返しに、隣の縄張りを持つ島村（町田）伊三郎を米岡神社におびき出し、闇討ちにして斬殺。信州へ逃亡。信州の勝太の客となるが、信州の博徒らの裏切りで召捕られそうになる。それを見破って上州へ逃亡。赤城山に籠る。日光円蔵・八寸犀乙・山王民五郎・武川浅二郎らの子分を抱え、一家が拡大。

◇ 一八三五年（天保六年）

玉村宿の玉村京藏・主馬兄弟が山王堂村の山王民五郎の賭場を荒らしたため、民五郎に子分二人を加勢させて山王兄弟を襲撃させる。

◇ 一八三六年（天保七年）

信州中野村で弟分の茅場長兵衛（兆平とも）が、博徒源七に殺される。子分二十人を連れて仇討のため信州へ。源七はすでに逮捕されており、上州へ戻る。

◇ 一八三七年（天保八年）

三月、子分の三ツ木文蔵が公儀に逮捕され、木崎宿に宿泊中の役人を襲って奪還をこころみるが失敗。信州などへ逃亡。田部井村名主宇右衛門と謀り、磯沼浚渫工事の人足小屋で博奕開帳。賄賂十七両を宇右衛門に贈る。八州出役六〇〇人が賭場を急襲、日光円蔵らとともに再び逃亡。

◇ 一八三八年（天保九年）

三、四月、東上州大間々宿周辺に潜伏。関八州取締出役の大規模な搜索を受けるが、逃亡。

◇ 一九四一年（天保十二年）

玉村主馬が山王民五郎を殺害。

◇ 一八四二年（天保十三年）

忠治、逃亡中の会津から戻って玉村主馬を殺し、山王民五郎の仇を討つ。田部井の賭場の手入れの件で、その場にいなかった子分の板割浅太郎（浅次郎とも）が、その伯父で二足のワラジを履く三室の中嶋勘助に密告

したのではと嫌疑をかける。九月十三日、浅太郎に勘助とその子の太郎吉（勘太郎）を斬殺させる。九月、日光の円蔵以下、忠治一家九人の手配書が関八州から出される。一家は公儀の追手を逃れるため鎗・鉄砲で武装して大戸関所を破る。信州路で殺された長兵衛の仇討ちを理由に、多数の子分を引き連れて信州へ脱出。子分の板割浅太郎・日光の円蔵が逮捕され、死罪となる。

◇ 一八四六年（弘化三年）

公儀の追手から逃れて赤城山に潜伏。信州・甲州から越後・会津・美濃まで放浪したと伝えられる。

◇ 一八四九年（嘉永二年）

十一月、境川の安五郎に跡目を譲って親分を引退。

◇ 一八五〇年（嘉永三年）

七月、潜伏先の赤城山を脱出。妾のお町宅で七月二十一日、中風で倒れる。田部井村の宇右衛門宅に潜伏中の八月二十四日、関東取締出役によって捕縛される。江戸送りとなり、伝馬町の牢屋入り。十一月、勘定奉行池田播磨守頼方預りで吟味がなされ、死罪判決が出される。十二月二十一日、二度におよぶ関所破りの罪により上州大戸の処刑場へ送られ磔刑。十四本の槍を受け、四十一歳の生涯を終える。処刑時の警護人は三〇〇人、見物人は一五〇〇人を記録した。遺体は養寿寺・善応寺などに葬られる。野沢温泉に忠治地蔵が祀られる。

◇ 一八五一年（嘉永四年）

上州岩鼻陣屋代官で儒学者であった羽倉簡堂（外記）の手で、『劇盗忠二小伝（赤城録）』がまとめられる。

◇ 一八六〇年（安政七年）

宝井琴凌による講談『国定忠次』初演。

◇ 一八七九年（明治十二年）

『国定忠治実伝』がまとめられる。

◇ 一八八二年（明治十五年）

忠治三十三回忌に養寿寺に墓石が建てられる。

◇ 一九一九年（大正八年）

新国劇『国定忠治』上演（行友李風・沢田正二郎作）。

◇ 一九二五年（大正十四年）

土師清二による大衆小説『深紅赤城風』。

◇ 一九二七年（昭和二年）

日活無声映画『忠治旅日記』制作・上映。「甲州殺篇」・

「信州血笑篇」・「御用篇」の三部作（伊藤大輔監督・

大河内伝次郎主演）。

◇ 一九三二年（昭和七年）

子母沢寛による毎日新聞連載小説『国定忠治』が発表

される。新国劇『国定忠治』上演（真山青果作）

◇ 一九三三年（昭和八年）

千恵蔵プロ映画『国定忠治』（稲垣浩監督・片岡千恵蔵主演）。

◇ 一九三四年（昭和九年）

新興トーキー映画『忠治売出す』（伊丹万作監督）。日

活映画『国定忠治』（山中貞雄監督）。松竹キネマ『浅太郎赤城の唄』（秋山耕作監督・高田浩吉主演）。

◇ 一九三五年（昭和十年）

『浅太郎赤城の唄』の主題歌であった東海林太郎の「赤城の子守唄」大ヒット。

◇ 一九三六年（昭和十一年）

マキノトーキー映画『国定忠治信州子守唄』（マキノ正博監督・月形龍之介主演）。『忠治血笑録』（久保為義およびマキノ正博監督・葉山純之輔主演）。『忠治活殺劔』（久保為義およびマキノ正博監督・清水英太郎主演）。

◇ 一九三七年（昭和十二年）  
長谷川伸による大衆小説『国定忠治』。

◇ 一九三八年（昭和十三年）

東海林太郎「忠治子守唄」大ヒット。

◇ 一九三九年（昭和十四年）

東海林太郎「名月赤城山」大ヒット。

◇ 一九四六年（昭和二十一年）

大映映画『国定忠治』（松田安次監督・阪東妻三郎主演）。

◇ 一九五〇年（昭和二十五年）

新国劇『極付国定忠治』上演（辰巳柳太郎主演）。

◇ 一九五四年（昭和二十九年）

日活映画『国定忠治』（滝沢英輔監督・辰巳柳太郎主演）。

◇ 一九五七年（昭和三十三年）

新国劇『国定忠治』上演（村山知義作）。松竹映画『赤

城の血煙』（福田晴一監督・高田浩吉主演）。

◇ 一九五八年（昭和三十三年）

大映映画『国定忠治』（松田定次監督・片岡千恵蔵主演）。

◇ 一九六〇年（昭和三十五年）

東宝映画『国定忠治』（谷口千吉監督・三船敏郎主演）。

第二東映映画『浪曲国定忠治赤城の子守唄血煙り信州路』（冬島泰三監督・若杉恵之介主演）。

◇ 一九六七年（昭和四十二年）

長野県長野市の善光寺開帳記念行事として、国定忠治祭りが開催され、養寿院より分骨がなされて市内権堂町に忠治の墓が設けられる。

◇ 二〇一二年（平成二十四年）

長野県下高井郡野沢温泉村に忠治地蔵が再建される。

ここで本題である国定忠治の北信濃の痕跡を前述の年表から追うことにした。まず、「一八五〇年（嘉永三年）、

野沢温泉に忠治地蔵が祀<sup>まつ</sup>られる。」とされている。「群

馬県遊民史」(荻原進氏著)に、「忠治が吾妻郡大戸で処

刑されたのが嘉永三年十二月二十一日であつたのに、その三日後の十二月二十四日にこの像が建てられたことは、そこに深い秘密があるのかもわからない。」と書かれている。このことに関心を持たれた上野正氏が、『高井百四十五号』で「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」と題して投稿されている。像に刻まれている「畔上つま」は、忠治が亡くなつて十年以上たつてから生まれている。忠治の愛人説は否定され、忠治とつまは生きた世代のちがう人間ですから、会つてもいません。勿論つまは忠治の愛人などではありません。また、忠治が野沢温泉に潜伏していたという、証拠になるものは何一つありませんので、「国定忠治野沢温泉潜伏説」は、その根拠を失いました、と結ばれています。

次に、「一九六七年(昭和四十二年)に、「長野県長野市の善光寺開帳記念行事として、国定忠治祭りが開催され、養寿院<sup>ようじゅいん</sup>より分骨がなされて、市内権堂町に忠治の墓が設けられる。」とある。このことは、『長野市権堂町史』

に、秋葉神社境内「四条<sup>しじょう</sup>霊社」の東側に、国定忠治の墓碑があると書かれていることから裏付けられる。これは

中山寛茂<sup>ひろしげ</sup>さんが昭和四十二年に建立したものである。なお、同五月、権堂町忠治まつりの会が、「国定忠治ものがたり」のパンフレットを発行したとある。祭りは忠治の名声を受け、観光振興のため平成二十四年頃まで行われていた。

年表には二〇一二年(平成二十四年)「長野県下高井郡野沢温泉村に忠治地蔵が再建される。」とある。「高井百四十五号」の「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」で、上野氏は、「野沢にあつた忠治地蔵は、昭和三年頃須坂の青木屋の土蔵に移され、その後昭和二十五年頃須坂市上町の寿泉院に地蔵堂を作り移された。」と書いている。現在

野沢温泉村の麻釜<sup>おかま</sup>上手の薬師堂の前にある地藏は、有志が

二〇一二年（平成二十四年）に建立した、と立て札に書かれていた。観光振興のため作られたものと思われる。

前記の年表に載っていないが、志賀高原硯川ホテル前の前山リフト乗り場付近に、「忠治の隠れ岩」なるものがある。平成十年に山ノ内町の和合会が観光振興のため、石碑・案内板などを整備した。和合会から、「観光名所になりそうな岩が、忠治の通ったとされる草津道脇にあり整備し、五年程毎年硯川と渋温泉でお祭りを行った。」と説明を受けた。

次に「国定忠治が残した北信濃の痕跡」について、年次順にまとめてみたい。

一、須坂市上町の寿泉院<sup>じゆせんいん</sup>にある「地藏堂」――忠治地藏

には一八五〇年（嘉永三年）十二月二十四日、世話人畔上つま、石工服田実と刻まれている。畔上つまは約十年後の一八六一年（文久三年）七月九日生まれ。畔上つまが成人（明治）になって作らたもので、十二月二十四日は忠治の亡くなった日（三日違いは当時では誤差）と思われる。



二、長野市権堂、秋葉神社境内にある「国定忠治の墓  
碑」——中山寛茂さんが一九六七年（昭和四十二年）  
に建立。



三、志賀高原硯川ホテル前の前山リフト乗り場付近に  
ある「忠治の隠れ岩」——一九九八年（平成十年）に、  
山ノ内町の和合会が石碑・案内板などを整備。



四、  
野沢温泉村に再建された「忠治地蔵」―二〇一二年（平成二十四年）に忠治地蔵が地元有志により再建。



五、  
中野市松崎の八ヶ郷用水取入口付近の国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋―二〇一八年（平成三十年）畔上家の言い伝えについて、近くの有志が案内板を設置。



手前が国定忠治が渡ったと言い伝えられている石



設置されたいわれなどを記す石橋の案内看板

## 結び

国定忠治が残した北信濃の痕跡を整理してみると、一項は中風よけ地蔵として造られたと思われるが、謎である。二項、四項は忠治が亡くなった後、その名声をあやかるため残されたものである。その点、五項は国定忠治が信州中野の地を歩いた事を次世代に伝えるただ一つの石橋で、将来の保存方法について行政・住民と考える価値がある。

## 参考文献

- ・『赤城録』（写し）群馬県立図書館所有一八五一年（嘉永四年）羽倉簡堂著
- ・西郊民俗談話会ホームページに連載の「民俗学の散歩道 二二」二〇一五年（平成二七年）七月号「国定忠治の伝承」長沢利明著
- ・『大間々町誌』『基礎資料Ⅶ大泉院日記』大間々町誌編さん室編一九九六年（平成八年）
- ・『江戸のアウトロー（無宿と博）』阿部昭著一九九九年（平成十一年）

・『国定忠次名月赤城山』笹沢左保 萩原進共著

- ・ 一九八二年（昭和五十七年）
- ・ 『群馬県遊民史』萩原進著一九八〇年（昭和五十五年）
- ・ 『高井百四十五号』「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」二〇〇三年（平成十五年）上野正
- ・ 『長野市権堂町史』一九九三年（平成五年）権堂町史編集委員会
- ・ 『志賀高原・渋温泉・杳野温泉（義民・侠客 国定忠治伝）』一九九九年（平成十年）おおくらたにあきら大蔵谷明著

（中野市竹原一七七七）

# 「国定忠治が…」に看板

竹原の  
黒崎さん

言い伝えある草津道に設置

中野市竹原の黒崎一男さんは、国定忠治が通ったと言いつたところがある草津道の石橋の脇に、市の許可を得て看板を設置した。

石橋は、夜間瀬川の八ヶ郷分水タンク下流の竹原松先地籍の若宮堰に架かる。草津道のここを通過して、丸

太橋の夜間瀬川を渡ったと言いつたところがある。地元女性から「歴史を言いつたてほしい」と託され、黒崎さんが看板設置に向けて奔走した。

国定忠治は江戸時代後期の侠客で、博徒となって上州から信州一帯で活動し、

「盗区」として一帯を支配した。調べてみると大戸の関所破りをするなど中野に少なくとも2度来ていることが分かった。

この石橋の夜間瀬川寄りには水神さんの神社があった。黒崎さんは「丸太橋を渡り、上条を通過して湯田中、そして渡へ。天領で役人

の目が届かず、隠れつつたのではないかと」している。

看板には、農林水産ムページから八ヶ郷の説明、ウオーキングス、水神祠、記念碑、の草津街道、写真で現在地と上空写真など示している。



手前が国定忠治が渡ったと言いつたところの石



# 忠治地蔵

江戸末期の侠客、国定忠治にゆかりの地蔵菩薩で、嘉永三年（一八五〇年）に造られたという。

もとは野沢温泉にあり、中風除け忠治地蔵として信仰を集めていたが、昭和二五年に訳あってこの地に安置された。

このお地蔵様の評判は、県外の方が高く、群馬県や新潟県等からわざわざ訪れる人もいる。

国定忠治は、信州にも来ており、大笹街道の抜け道を通っている。

なお、当区では、区長以下が毎年春・秋に参拝し、区の平穏無事と区民の健康を祈願している。

# 国定忠治の墓

「赤城の山も今宵かぎり……」で有名な忠治は、江戸時代末期の任侠の博徒。

群馬、当時国定村では、天保の大飢饉の時に、自らの私財を投げうって村人を助けたと言われている英雄です。

長野で国定忠治？と思われませんが、天保の頃、権堂村に宿をとったさい、娘を売った金をうばわれ困っている一人の百姓に同情し、助けたというエピソードが残っていたり、その他数回にわたり権堂村には足を運んでいたようです。

昭和四十二年五月十四日、善光寺御開帳記念行事の一つ「忠治親分」ゆかり地として国定忠治祭りが行われ、約百人で「忠治一家」の仮装行列をした。

国定忠治の墓は群馬の天台宗金城山養寿寺から分骨してもらったものを法要し安置した。

ちゅうぶ

## 中風除け

### 野沢の忠治地蔵菩薩

この忠治地蔵菩薩は、国定忠治が亡くなって三日後の嘉永三年（1850年）十二月二十四日、忠治が以前、当村惣湯（大湯）前の旅籠屋に中風治療のため湯治に来ていた時の事、その間長らく忠治のお世話をしていた宿の関係者の娘さん、畔上つまさんによって供養のため建立されたものです。

長い間中風除けとして県内外の人々によって親しまれ信仰されていましたが、昭和二十五年に訳あって忠治地蔵菩薩が須坂市の寺、寿泉院に移されました。

その後、永年にわたり村民から再建を切望されておりましたが六十余年ぶりに地元の有志によって元の場所に復元、再建いたしました。

人もお湯も温かいやさしい地元の娘畔上つまさんの供養地蔵菩薩でもあります。

合掌

平成二十四年五月吉日

再建世話人会

## 忠治隠れ岩

上州〔群馬県〕佐位郡  
国定村に浪花節、浪曲、  
映画、新国劇、小説、歌  
謡曲でもおなじみの侠客  
であつた、そればかりで  
はない日本全国の村芝居  
にも登場して活躍した。

その長岡忠次郎が国定  
忠治として上州一円に名

を売つたのは博徒としてである忠治ほど伝説の多い  
博徒はいないが、彼が侠客といわれることについて  
江戸北町奉行の鍋島内匠頭直孝は農民を救恤し義の  
人であつたと評しているからここからも伝説が生ま  
れる原因がある、嘉永三年（一八五四年）に忠治は  
関所破りの罪で死罪となるここ前山にある「忠治隠  
れ岩」は関八州取締役に追われた忠治が隠れた岩で  
あると言われている。その真意はともかくとして忠  
治伝説にふさわしい史伝の跡である。







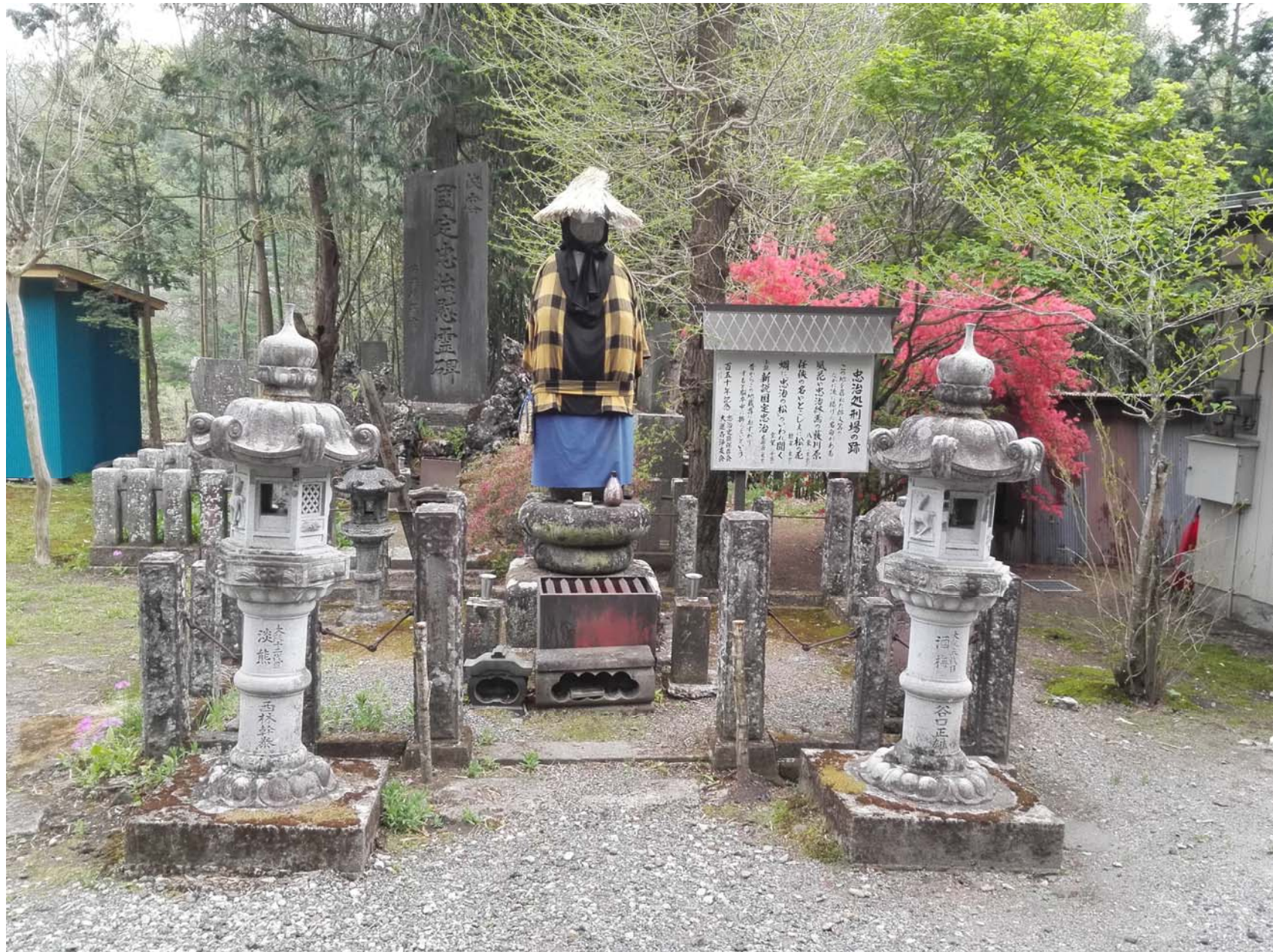
# 大戸関所跡

大戸関所は信州街道の要点をおさえる重要な関所で近世初頭の寛永八年(一六三三)に設置された。信州街道は草津温泉を始めとする湯治客・善光寺参り北信濃の三侯の廻米や武家商人の荷物各地の産物の輸送路として中山道を凌ぐ程の活気を呈したといわれ江戸と信濃を結ぶ最短距離として重要な街道であった。別名信州道 草津道 善光寺道 大戸廻りとも呼ばれていた。

大戸関所は元和九年五月(一六三三)将軍秀忠上洛の時に要害の此の地を守護したのが始まりといわれる。其の後寛永七年に幕府目付によって関所見立の巡検があり翌八年に正式に関所が設けられた。中山道の脇往還で碓氷関所の裏側の意味を持っている。以後二百三十有余年の間幕府代官の管理の下に運営され明治元年九月に廃止された。関所は通行手形によって往來の旅人を厳重に取締り関所破りは重罪として処刑された記録がある。註 関所を避けて山越しなどをした者。通行の門限は明六つから暮六つ(午前六時より午後六時)まで定められていた。また要害地域を守る関所付の村として大戸萩生本宿の三ヶ村は関所番人を出し警備に当たったり関所破りを監視するなどの負担を義務づけられていた。隣の十一ヶ村は関所番請村に充てられていた。

嘉永三年十二月(一八五〇)に関所破りの罪を受け侯客国定忠治はこの地で処刑された。映画演劇や講談浪曲でも知られる處である。

吾妻町観光協会・史蹟保存会



# 忠治処刑場の跡

この地を尋ねた俳人等の  
なかに次に掲げた名句がある

風花や忠治終焉の藪川原

八束（東京）

任侠の名やとしえに松の花

樗雀（東京）

蝸に「忠治の松」のいわれ聞く

空望（千葉）

小説新説国定忠治

左保著（東京）

昔からこの地蔵尊におすがり  
すると脳卒中に掛らないという

百五十年記念

忠治史蹟保存会  
大運寺浄友会

忠治史蹟  
大運寺浄友会



國定一家  
十二人衆

慰霊碑

日光の円藏  
板割の浅太郎  
清水の巖鉄  
三ツ木の文藏  
松井田の喜藏  
成塚村の美代太郎  
足利の權藏  
山王の民五郎  
穂積の守之助  
安中の清藏  
高山の定七  
滝川の安五郎







# 天台宗金城山養寿寺

## (国定忠治の墓)

ここは国定忠治の菩提寺で境内には忠治の墓及び遺品陳列所があり遺品ご遺物、忠治の実物大の木像と七〇〇年前の薬師如来の木像がある。

西暦一八十〇年与五右衛門と伊与との間に出生した忠治は十三才の頃から賭博をおぼえ天保五年の春には島村の伊三郎を斬殺して一躍名をうった。のち大戸の関所を破り本格的博徒となったが一方磯沼しゅんせつ工事をして農家を救済したというのが善行とされているが前後三回関所破りした罪で嘉永二年十一月に滝川の安五郎に後目を譲り翌年七月二十一日中風となって八月二十四日御用弁となった、この時関東一円に助命運動があったという。弘化三年に忠治が赤城山にこもったのは余りにも有名である。

嘉永三年の年の暮 二十一日に大戸の関所ではりつけの刑に処せられたが忠治はこの時四十一才の若さであった。

法名「長岡院法誉花樂居士」



長岡忠治之墓

勇雲書

奉納

国定忠治八木節記念碑

くすくす 追善供養者長岡

祖代々々々精霊菩提

# 長岡家のつたえ

中世からの家歴と考えられる長岡家は、その長い世襲の間に幾多の盛衰はあったにしても徳川中期以降、長岡権太夫、長岡与五左衛門までは、歴代名主をつとめ、この地に重きをなしていたと考えられる。長岡忠次郎は、与五左衛門の嫡男として生れた。弟友造は、分家したが兄忠次郎の継承がなかった為、本家にその嫡男権太之を継ぎ、その女とよに新田郡綿打村大字湍池吉田家より入婿の石次郎之を受け、その嫡男藤之助之を継ぎ、その子光石が現在家系を継いでいる。卒然として天下を風靡した長岡忠次郎は、その任侠心と、生来の気魄により、世を助け一途を全うした。こゝに先祖代々の供養碑を建て、るに当り、特筆する。

当主光石の姉ふみは、幼時より佛門に帰依し、恵妙と号し、今も尚、千葉県山甲町大榮寺内に於て、先祖供養の為、お題目を唱え続けている。合掌

昭和五十九年三月吉日 施主 長岡 光石  
養寿寺住職 浅若祐昭代 撰文 野口 俊美









施無畏山 鏡泉院 善應寺

宗派 天台宗 本山 比叡山 延暦寺

本尊 聖観世音菩薩 縁日 八月九日

沿革

寛永年間（西暦一六二四〜一六四三）宗存阿闍梨という高僧がいた。衆生済度の念厚く日夜祈願に努めていたが、遂に感応を受け多くの不思議な事象が現われた。それらを東叡山法親王の宮に申し上げたところ、宮の御感に入り施無畏山鏡泉院善應寺の称号を賜り、一寺として東叡山（上野 寛永寺）直末に列せられた。明治維新後、比叡山延暦寺直末寺となる。  
以来今日に到る。

薬師堂 平成三年再建 薬師如来安置

縁日 三月八日 薬師護摩奉修

史跡

小島武堯の墓 市指定史跡 八坂用水開削者

新井雀里の墓 漢学者 伊勢崎藩郷学の指導者

設楽天僕の墓 医者・教育者 伊勢崎教育界の先覚者

国定忠治の墓 五目牛村のお徳が嘉永三年忠治の処刑後役人の目を逃れて自宅裏に建てたもの

平成十一年十月晋山記念



四代佐七

法師月詎道親居士

寛政十三年庚申十二月二日 卒

室

田島源助嫁一子あり離別

天保四年癸巳九月十日 卒

法師覺林了夢信女

生子

一伊三郎

嗣子

五代伊三郎

法師蓮清淨花信士

天保五年七月二日 卒

室

田島喜右衛門娘生子二人離別

法師慈照院觀光妙念大姉

明治六年 卒

生子

一いち

六代佐十郎

町田幸吉男伊三郎娘婿

法師觀壽院喜見淨證居士

明治十五年十月十四日卒 七十二才

室いち

町田伊三郎娘

法師珠室院松壽妙昭大姉

明治三十二年一月十四日卒 八十二才

生子

一丑松

嗣子

二女子

世良田村南高栗原周吉嫁

三村松

高崎市樋口重治郎養子







間ノ川又五郎は上州生まれで、旅暮らしの結果、信州長野  
中野村（現在の信州中野市）に一家を構えた。幕末の博徒  
では清水次郎長、黒駒勝蔵、大前田英五郎、天保水滸伝の  
笹川繁蔵などが有名である。間ノ川又五郎もそれらと比し  
ても遜色のない博徒である。その勢力範囲は、「善光寺  
平」一帯を中心に、東は関八州、西は美濃中山道、南は東  
海道に及び、子分身内三千人と言われた大親分である。信  
州中野で起きた百姓一揆である中野騒動において、関係者  
捕縛の仕事を行い、その功が認められ、中野県庁、その後、  
長野県庁の正式職員となった。そして明治8年12月に6  
2歳で生涯をとじた。間ノ川又五郎（佐山忠輝）の屋敷跡  
（信州中野市の隣り山ノ内町）に記念碑があります。



## 山ノ内町史跡

# 佐山忠輝の碑

昭和四十九年五月三日指定  
山ノ内町大字平隠下川原

この碑石は、通称間川又五郎と称した侠客  
佐山忠輝（二八一五〜一八七五）の頌徳碑で、  
佐山家旧屋敷跡の一隅に建てられている。  
忠輝は上州の人、任侠の気強く諸国の博徒  
と交わり頭角をあらわしたが嘉永年中心気  
一転して下川原に定住して、その開発をは  
かり幕末維新の時局に処し特に中野・長野  
県の官員として民生の安定に寄与した功績  
は大きい。

山ノ内町教育委員会



